

側縁式可動

えんだらー 鞆に復活を

福山の
児童 岡山県立大生と製作中

江戸期の風情を残す福山市鞆町でかつて広く使われた可動式縁側「えんだらー」の復活に、岡山県立大（総社市窪木）の学生と地元義務教育学校・市立鞆の浦学園児童らが取り組んでいる。来年2月ごろまでに国重要伝統的建造物群保存地区の旧中村薬局（福山市鞆町鞆）前に置き、商店街のにぎわいづくりを目指す。

えんだらーは、使わない時は壁にはね上げたり、持ち運んだりできた。古く狭い道が多い鞆町で親しまれてきたが、今では見られなくなった。

復活は、県立大デザイン学部や大学院の学生が地域のにぎわいをつくる授業の一環で計画。町に残る階段状の船着き場・雁木に着想を得て、大中小三つの台をつなげ、寝転んだ



組み立てた「えんだらー」を囲む鞆の浦学園児童

り、段差に座ったりできる新設計を考えた。入れ子構造で伸び縮みさせ、片付けられる。

10日は鞆の浦学園で、県立大などの学生6人と、学園の児童生徒42人が一部を製作。板をやすり掛けしたり、腐食防止のワックスを塗ったりし、一番大きな台（長さ約190センチ、幅90センチ、高さ40センチ）を組み立てた。

商店街のにぎわい復活に役立てたい」と話した。縁台は県立大に持ち帰り、今冬に3台を製作。来年2月中旬、児開く。（上田勇輝）

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。